

厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患等政策研究事業)  
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究  
分担研究報告書

非定型的自己免疫性肝炎の病態解明

研究協力者 高木章乃夫 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科  
消化器・肝臓内科学 准教授

研究要旨：自己免疫性肝炎急性型の病態を解明するため、自己免疫性肝炎患者の当院での経過につき解析し、免疫制御分子 PD-1 に対する抗体の陽性率が病態を反映するという既報を再評価し、急性発症型の鑑別診断の一助となる可能性を明らかにした。

共同研究者

安中哲也 岡山大学病院消化器内科 助教

A. 研究目的

通常の自己免疫性肝炎診断基準にあてはまることの少ない急性発症型自己免疫性肝炎や抗核抗体陰性自己免疫性肝炎の病態を明らかにし、診断基準を検討する。

B. 研究方法

当院で経験された急性発症型自己免疫性肝炎・抗核抗体陰性自己免疫性肝炎の経過・臨床データを明らかにし、免疫制御分子 PD-1 に対する抗体の陽性との相関を検討する。

(倫理面への配慮)

患者情報は新規番号で管理し、患者と番号との対応表は別のファイルで管理して、個人情報特定されないようにする。

C. 研究結果

IgG 値が 2g/dl 以下の自己免疫性肝炎症例において約 20%で抗 PD1 抗体陽性で、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎のうち、約 40%で抗 PD1 抗体陽性であった。急性発症自己免疫性肝炎症例では、抗体価は高値のものから低値のものまで存在しており、臨床病理的評価が必要であると考えられた。

D. 考察

IgG 値低値、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎の診断は組織検査を行ったとしても困難な場合が多い。このような症例におい

て長期的にステロイドを継続するか、短期的投与で終了としても良いか、判断に迷う場合も多い。このような病態の鑑別において、抗 PD1 抗体の検出が診断の参考になる可能性がある。

急性発症自己免疫性肝炎の中で、どのような症例が本抗体陽性になるか、を明らかにすることで、治療方針の一助になる可能性がある。

E. 結論

急性発症を含む IgG 値低値、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎診断において、抗 PD1 抗体の検出が診断の参考になる可能性がある。

F. 研究発表

1. 論文発表  
なし

2. 学会発表  
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況  
(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし  
2. 実用新案登録  
なし  
3. その他

抗体受託測定企業との間で、キット化の検討の為に協議中である。